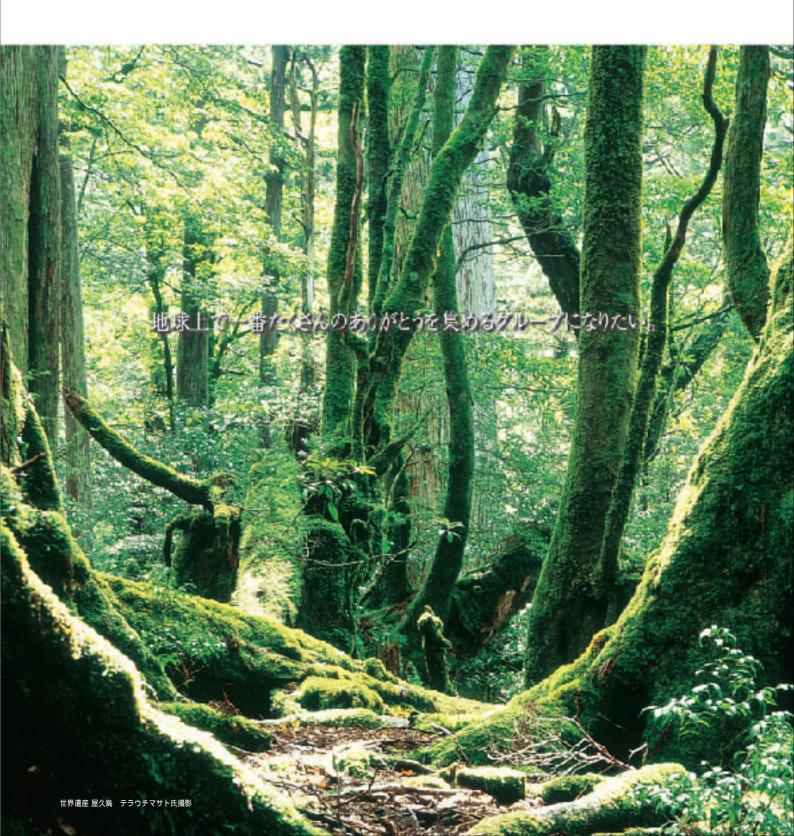
# **WATAMI**®

# ふれあい報告書 2004

ワタミフードサービス株式会社 環境・社会活動報告



# ふれあい報告書発行にあたり

「ふれあい報告書」は、「環境貢献、社会貢献、人間貢献」を目指す私たちの取組み結果の総括として毎年発行しています。

第4回目の発行となる今回の「ふれあい報告書」では全体の構成を、 お客様とのふれあいの場であるお店(店舗)を中心に、店舗以外、そして 本部・本社での取組みという3部に分けてまとめました。

昨年は200通に近いご意見をいただきました。今後も皆様の温かいご 理解と貴重なご意見をお待ちしております。

# 対象範囲

ワタミフードサービス(株)の直営店366店舗(「和民」284店、「和み亭」37店、「然の家」12店、「ゴハン」16店、「わたみん家」17店)並びに本社、ワタミ手づくり厨房の2拠点、ワタミエコロジー(株)の環境管理およびワタミグループ全体の社会貢献活動を対象としています。

# 対象期間

2003年度の活動を中心に、ご紹介させていただきます。 報告期間:2003年4月1日から2004年3月31日 (一部最新の情報を掲載しております。)

# 編集方針

「ふれあい報告書」は環境省やGRIのガイドラインなどを参照しながらも、あくまで、読み手の方の「知りたいこと」と私たちの「伝えたいこと」を意識して編集しています。

# 目次

ふれあい報告書発行にあたり/目次	1
トップメッセージ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
ワタミグループってどんな会社? (事業活動)	3
店舗でのふれあい	4
食材編 / 仕入れ・仕込み編	5
店舗スタッフ教育編 / スタンバイ編	7
営業中	9
財店後 トピックス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
	12
(店舗外でのふれあい	14
社会貢献活動(海外)	15
環境コミュニケーション・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
本部・本社での取組み	20
環境マネジメント	21
環境目標	22
環境コストと効果	23
環境教育------------------------------------	24
リスクマネジメント	25
データ集	26
会社概要/環境年表	27
2003年度アンケート結果	28
アンケートのお願い(アンケート用紙)	29
環境・社会活動に対する所感 第三者意見)/編集後記	30



# 「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループ」になりたい。



ワタミフードサービス株式会社 代表取締役社長 1夜 追 美 村

地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい 20世紀は、大量生産・大量消費社会による大量採取、大量廃棄の反省 のもと、21世紀の私たちが目指す豊かな社会へのキーワードは、「循環」 「再生」であると信じています。

私たち、ワタミグループのスローガンは、「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループになりたい。」というもので、ワタミグループ全社員の思いです。私たちは、売上や利益を求めるためだけでなく、ただひたすらに、お客様、株主様、従業員、地域の方々、途上国の子どもたちなど、あらゆる人々から「ありがとう」をいただける存在でありたい……。また、人生の目的は「夢」を追うプロセスを通して、人として持って生まれた資質を高めていくことである……と考えています。この思いを、このスローガンに表現しました。

今年、1つの「夢」が形になりました。1999年、ISO14001取得時に発表した「2004年ゼロエミッション(首都圏店舗)」です。現在、ゼロエミッションを達成した100店舗では、ほとんどのゴミが再資源化され、循環の輪が構築されています。これは、店舗で働く、社員、アルバイトメンバーさんが真剣にゴミの分別に取組んだ結果です。この「ゼロエミッション」の輪を広げながら更に貢献活動を推進していきます。

次なる取組みは、「エネルギーマネジメント」の導入です。この仕組みによって、地球温暖化の原因であるCO2を7%削減できる見込みです。これらの取組みを支えるのは、グループ会社のワタミエコロジー(株)です。ワタミエコロジー(株)は、グループの本社・店舗での実績をもとに、グループ内活動にとどまらず様々な企業、施設での環境改善活動のお手伝いをさせていただいています。私たちの活動が、地球環境の改善に少しでもつながれば大変喜ばしいことです。

2005年4月1日、「ワタミフードサービス(株)」は「ワタミ(株)」に 社名変更をし、「外食事業だけの会社」から「外食事業もやっている会社」 になります。ワタミの最大の財産である、「思いを共有する人」が最大 の差別化となる事業に参入し、「あらゆる場面でありがとう」を集める グループとなるべく、更なる努力をしてまいります。



ワタミグループ環境管理責任者 ワタミエコロジー株式会社 代表取締役社長

中田安紀

美しい地球を美しいままに

私たちは今年、7月1日にジャパン・リテイル・メンテナンス(株)からワタミエコロジー(株)に社名変更致しました。これは、今までメンテナンスや清掃等と一緒に行ってきたリサイクルや省エネ等の環境事業をより積極的に推進していくという決心を含めた社名変更です。メンテナンス事業と環境事業を融合し、外食産業だけではなく、様々な施設を環境側面から管理する「環境改善業」を展開していきます。

地球は今、様々な環境問題を抱えて病んでいる状態です。特に地球温暖化問題はその最たるものと言えます。地球の気温は20世紀の100年間で、0.3 ~ 0.6 上昇。そして21世紀の100年間では1.8 ~ 5.8 上昇、この影響で海面は1m上昇するものと考えられています。ツバル諸島を初めとする南太平洋の島々は、この海面上昇が進行すると海の下に沈んでしまう運命にあり、日本でも砂浜の約90%は消えてしまうという事態に陥ります。また、生態系の破壊や食糧不足という問題を引き起こします。

日本は京都議定書を批准しており、地球温暖化ガスを1990年比で6%削減する義務を負っていますが、現在、外食産業が組み込まれている業務その他部門では地球温暖化ガスは30%以上増加しているのが現状です。このままでは地球温暖化にますます拍車がかかる事となり、京都議定書で交わした国際的な約束を遵守する事が困難な状況にあります。現在、ワタミグループ100店舗(首都圏)での廃棄物ゼロエミッション達成や無駄な使用電力監視システムの導入をはじめ、グループ以外の企業に対しても、ISO14001認証取得コンサルティングや廃棄物のリサイクルに関するシステムづくり、省エネ機器の導入など、様々な施設の環境負荷低減活動を実施しています。

そしてこれらの活動をさらに拡大するとともに、今後開発していく環 境対策プランにより、地球温暖化防止に貢献する企業を目指します。

「美しい地球を美しいままに」保ち、現在だけではなく、未来の人達からも、「たくさんのありがとう」をいただけるようになりたいと思っています。

# ワタミグループってどんな会社?

ワタミグループ(外食事業)は、個性ある業態で、多様化するお客様ニーズに対応。 2008年に1000店舗を目指しています。

ワタミグループ事業展開 外食、環境、農業、介護、教育の分野でグループ事業が立ち上がっています。

# グループミッション

地球人類の人間性向上のための よりよい環境をつくり、よりよいきっかけを提供すること

# 私たちの目指すもの(経営目的)

- 1.一人でも多くのお客様にあらゆる出会いと ふれあいの場と安らぎの空間を提供すること
- 1.会社の繁栄、社員の幸福、関連会社・取引業者の繁栄、 新しき文化の創造、人類社会の発展、人類の幸福への貢献





地球環境を守る環境改善業

ワタミエコロジー(株)は、2000年4月、ジャパン・リテイル・メンテナンス(株)としてワタミフードサービス(株)、日本ケンタッキー・フライド・チキン(株)、(株)にスフードサービスの共同事業(店舗の緊急修理受付・ゴミ処理・清掃)として設立され、2004年7月に現社名に変更しました。

ワタミグループ内では「リサイクル~ゼロエミッション」の完成の要として、店舗のトータル管理システムを開発提案しています。

今後は、これまでに培ってきたメンテナンスや施設管理のノウハウを 活かした「店舗施設の環境対応パッケージ」として、外食業界だけでなく、 広く学校、病院など他の施設にも展開、地球環境の保全に貢献していき ます。

ワタミエコロジー ホームページ http://www.watami-ecology.co.jp

# 「心地よい毎日を支える介護サービス」ワタミメディカルサービス(株)

2004年4月、介護事業(訪問介護・居宅介護支援)を行うワタミメディカルサービス(株)を設立しました。

今後の計画は、訪問介護・通所介護(デイサービス)の万全なサービス体制を組み込んだ、低価格な「高齢者向け賃貸マンション(2005年度に1号棟予定)」を展開、そこを拠点としての、福祉用具・介護用品の購入・レンタル(販売)のサポートなどの事業を展開します。

# 「人材開発・教育事業の企業内大学」ワタミユニバーシティ株)

ワタミユニバーシティ(株)は1998年5月、ワタミグループの採用・教育を行う会社として設立された(株)キャリアビジョンを2004年7月に現社名に変更しました。

これを機に、従来の外食事業の採用、教育が中心の活動から、人材開発・ 教育に関する多岐に亘るサポート業務へと業容をシフト、今後は外食以外 のグループ企業にも事業領域を広げていきます。

# 「花とふれあう生活」 グリーンインダストリー(株)



2000年2月、花卉販売チェーンを運営することを目的に設立、同年4月に1号店「花木」(神奈川県川崎市)を出店(2003年2月より「FLOWER KITCHEN」に改名)しました。新鮮な花をより低価格で提供、気軽に選び、楽しめる「花とふれあう生活」を提案しています。



JAS有機認証を積極的に取得

# 「安全で安心なおいしい野菜」ワタミファーム

2002年4月、ワタミグループ念願の農業進出の第一歩としてワタミファームを設立し、千葉県山武町で第一農場を稼動させました。現在は、山武農場(千葉県山武町)、倉渕農場(群馬県倉渕村)、瀬棚農場(北海道瀬棚町)白浜農場(千葉県白浜町)とその規模を拡大しています。

2003年11月にはワタミファームと千葉県山武町と共同で「有機農業推進特区」を申請し認可されました。

2004年4月には、瀬棚農場でも農業特区が認可され酪農にも進出、日本初の有機牛乳の生産を目指します。

ワタミファームは、JAS有機認証を積極的に取得し、有機野菜を中心とする「安全で安心なおいしい野菜」をグループ店舗へ供給し、今後外販も展開していく計画です。

ワタミファーム ホームページ http://www.watamifarm.co.jp

徹底した衛生管理の集中仕込みセンター

# ワタミ手づくり厨房

# 「こだわりの手づくりシステム」ワタミ手づくり厨房

ワタミグループでは、居食屋「和民」オープン当初より、冷凍食品や加工食品を極力使わずに、調理の一歩手前まで各店舗で仕込む「こだわりの手づくりのシステム」を開発実現していました。

現在では、このシステムの最大の長所である「手づくり感」を損なわずに調理する考えを活かし2002年3月、集中仕込みセンター「ワタミ手づくり厨房」を埼玉県越谷市に設置し、関東圏の「和民」「和み亭」への仕込み品の供給を始めました。

2003年5月には、神奈川県相模原市に第二センターが稼動し、関西・九州・中京・東海圏も含めてグループ全店に供給しています。

「ワタミ手づくり厨房」では徹底した衛生管理のもと、日々の仕込み作業が行われています。作業の集約によって食材ロスの削減、生産性・衛生の向上、商品の均一化を実現し、グループ店舗のコンセプトである「手づくりを守りながら、安全で安心で、より良い商品を安価に、お客様に提供」する原動力となっています。

# 店舗でのふれあい

食材の仕入れから営業中、閉店後まで、グループ店舗での様々なふれあい活動をご紹介します。

# 主力の外食事業での展開店舗

**あなたのリビング&ダイニン** 

# 居食屋「和民」



お酒を飲みに行く店、お食事だけの店といった区分けをせず、「時間、空間を楽しむ」新しいタイプの居酒屋として開発。毎年コンセプトを強化、現在では「あなたのリビング&ダイニング」として展開しています。居食屋「和民」は1992年4月、東京都渋谷区に1号店(笹塚店)を出店。2001年4月に関西、2002年3月に九州、2003年7月には中京・東海地区へ出店しています。





# 語らい処「坐・和民」

居食屋市場の変化に合わせ、お客様のライフスタイルの変化やニーズの多様化に対応した新提案店舗、語らい処「坐・和民」を開発しました。従来の「和民」と同じ客単価に設定しながら、内装により個室感を持たせた「静かに語り合う」空間を提供しています。2004年5月に既存の「和民」新宿野村ビル店を改装し、1号店を出店しました。





# 居食屋「和み亭」

「和み亭」は、ファミリーコミュニティレストランとして2000年5月に神奈川県川崎市に1号店(稲田 堤店)を出店、展開を開始。2004年4月、コンセプトをより明確化し、居食屋「和み亭」として展開。 居 食屋「和み亭」は、ランチ&ディナー営業を行いながら、平日は居酒屋ニーズに対応、週末にファミリー がご来店する居食屋として多様なニーズに対応しています。 現在は首都圏を中心に展開中です。





# 炭火焼だいにんぐわたみん家」

ワタミDFS株式会社

2003年1月に出店し実験を続けてきた居食屋「わたみん家」を、よりコンセプトを明確にブラッシュアップ。2003年8月に、グループで初めての「炭火焼串料理」と「おでん」といった専門柱商品を提案する業態、炭火焼だいにんぐ「わたみん家」1号店を神奈川県厚木市に出店、その後すべての「わたみん家」を炭火焼だいにんぐ業態に転換しました。低価格バージョンの居食屋として展開中です。





# Japanese dining「ゴハン」

懐かしさのなかに新鮮さを感じる内装、かっこいいだけでなく暖かさも・・・そんな落ち着きのある空間をつくりました。ふしぎな雑路感のあるモダーンな居食屋。メニューには有機野菜を積極的に取り入れ、安全・安心な料理と心を癒す上質のお酒をお楽しみいただけます。2002年4月に「ゴハン」1号店を東京都町田市に出店、現在は Japanese dining「ゴハン」として展開中です。





# ごはん酒房「然の家」

ごはん酒房「然の家」は、"自然"をキーコンセプトに据え、より幅広い層の方々の、より多様なご利用動機にお応えできる、ゆったりと語り合える新しい和の居食屋空間です。 有機野菜を積極的に取り入れ、安全・安心なお料理と心を癒す上質のお酒を提供いたします。 2003年11月に1号店を神奈川県厚木市に出店、現在は首都圏を中心に展開中です。





# Restaurant & American Bar「T.G.I. Friday's®」(株 ティージーアイ・フライデーズ・ジャパン

「古き良きアメリカ」をコンセプトに、ドリンク類を豊富に揃え、アメリカの家庭食をフレンドリーなサービスで提供するレストラン。 アメリカのカールソン・レストランツ・ワールドワイド社が世界54カ国に739店舗を展開。 日本では1998年11月にワタミと(株 ディージーアイ・フライデーズ・ジャパンを設立、1999年8月日本1号店( 渋谷神南店 )を出店、現在は国内8店舗とグアムタモン店の運営を行っています。





# 居食屋「和民HongKong」

和民(中國)有限公司

「食」の香港で、日本の食スタイルを楽しく、気軽に味わっていただくことを目指して、和民(中國)有限公司を設立、2001年11月に九龍島中心地・尖沙咀にHumphreys Avenue店を出店。「和民」そのままの日本の味を楽しめるおしゃれなJapanese Casual Restaurantとして受け入れられています。2005年中には、中国本土への進出も予定しています。



# ワタミグループでは食材をつくっているの?

ワタミグループでは食の「安全・安心」確保のために有機農場を経営、生産地も年々拡大しています。



# ワタミファーム

日本の食糧自給率(カロリーベース)は、1965年の75%以来下がり続け、ここ数年は約40%で推移しています。化学肥料を使用してきた土地は疲弊し環境問題を引き起こし、農薬の使用により栽培された野菜は安全という観点からみても課題を残しているのが現状です。

ワタミグループでは上記のような問題に対処し安全で安心な野菜を少しでも多く確保するため、2002年より直営の有機農場、ワタミファームを運営しています。このワタミファームではワタミグループの店舗から回収された生ゴミの乾燥物を使用し、堆肥づくり、土づくりから行っています。ここで収穫された農産物はワタミグループの店舗に納品される他、外販もしています。

また、ワタミファームは、全国の有機農家と協力して有機農業技術などのネットワークを構築し、農業や環境の情報の発信基地としての役割を持っています。そしてグループ各社は、従業員が農業を通して大地の恵みの



改正JAS法に 基づいて発行された ワタミファームの 有機圃場認定書

# 有機JAS認証野菜

ワタミグループでは安全で安心な商品を提供したいという思いのもと、 有機野菜を積極的に導入しています。

土づくりからこだわったワタミファームで生産された有機野菜を中心に、店舗へ供給を行っています。

有機JASマーク JAS

有機野菜とは、「農林物資の規格化及び、品質表示の適正化に関する 法律」(改正JAS法)に基づいて認証された圃場で栽培された野菜で す。有機野菜認証にあたっては農薬や化学肥料を2年以上一切使わな い圃場で栽培するなど、農林水産省に登録された認定機関の検査を

受ける必要があります。

これらの条件を満たした野菜のみが「有機JASマーク」をつけることができます。 「有機JASマーク」は、安全で安心な有機野菜としての目印となっています。 尊さや、地球環境を維持していくことの大切さを考えるきっかけの場として、店舗の社員を定期的に農場に派遣して農業研修を行っています。

2003年度より、店舗のお客様をご招待して、有機農業を体験してもらうために、野菜の収穫や、試食会等も行なっています。

# 栽培している野菜

大根、レタス類、セロリ、小松菜、 白菜、キャベツ、ほうれん草、カブなど



# 酪農·乳製品加工

北海道の瀬棚農場では、牛の有機酪農も行なっています。飼料は、100%有機牧草と有機飼料を与え放牧でのびのびと育っています。牛の糞尿は農場の堆肥に使用して循環させています。2004年8月からは、アイスクリームやチーズといった乳製品の販売が開始されました。

# 有機野菜納入量

ワタミグループでは2002年より有機野菜の取組みを始め、2004年7月度の店舗における、全野菜納品量に対する有機野菜の仕入れ比率は、全野菜仕入量の約31%になっています。

── 有機野菜 382t(4.56%)

2002年度 1年間の実績 (全野菜 8,366t)

── 有機野菜 1,933t(22.92%)

2003年度 1年間の実績 (全野菜 8,434t)

# 生産地



# 食品の安全管理・食材の衛生管理はどうなっているの?

食材の仕込みを「ワタミ手づくり厨房」で一括して行っている他、仕入先や店舗に対する衛生管理体制を 万全にしています。

# ワタミ手づくり厨房



# 添加物の削減

ワタミグループでは加工食品や原料に含まれる添加物を削減するプロジェクトを2003年4月に発足し、より安全で安心な食への追求を行っています。

2003年度は、15品目(餃子・唐揚のタレ・鶏ネギソース・アタリ・冷麺スープ・わさび・紅しょうが・胡麻ドレッシング・マスタード・ポン酢・お茶づけタレ・そばつゆ・ビビンバベース・ケチャップ・タコキムチ)から、保存料などを削減し、累計で3,059Kgの削減につながりました。

2004年度からは、ISO14001の目的・目標に組込み、継続的にこの活動を行っています。

# 遺伝子組換え食品への対応

ワタミグループでは、料理、味のベースとなる基礎調味料について、 遺伝子組換えをしていない大豆から作った醤油や、生味噌を使用してい ます。

もちろん、ポテト、コーン、豆腐や納豆などの食材に遺伝子組換え食品は使用していません。遺伝子組換えかどうかの確認では、お取引先との信頼関係構築、生産ラインで混入しないことの確認、物流中に混入しないかの確認等、念入りなチェックを重ねています。



# 徹底的な衛生管理体制

ワタミグループでは、徹底した衛生管理体制を構築し、これらの仕組 みが、安全で安心な料理をお客様にお届けする基礎となっています。

### 仕入れ

ワタミグループの品質規格に合った食材を仕入れるために、お取引 先に細菌検査の結果や生産地や生産者の確認が取れる書類の提出を求め、 内容を精査し、安全確認を行っています。

さらに、加工食品については、原材料別の生産地や生産者の確認、製造工程表の提出も求め、その工程における温度管理や異物混入対策の確認も行い、仕入れる食材の安全を確保しています。

# 「ワタミ手づくり厨房」

「ワタミ手づくり厨房」では、十分な温度管理のもとで仕込み作業が行われています。 また、センター内に検査室を設置し、定期的に生産される商品や原料自体の抜き取り検査や、製造機械の衛生検査を行っています。

さらに、仕込みに関わる従業員だけでなく、事務部門を含めた全社員に対して衛生検査を定期的に行い、食中毒菌をセンターに持ち込まない仕組みを構築しています。これらの仕組みで製造された食材は、当日(一部翌日)のうちに温度管理された配送車で、各店舗へ届けられます。

# 店舗

店舗では、毎日行う使用食材の品質チェック、保管用冷凍・冷蔵庫の 温度チェックをはじめ、定期的に従業員の衛生検査を行い、食中毒菌を 保菌していないかの確認をしています。

また、専門業者による厨房を含めた店舗清掃や害虫発生予防も行われています。



# お店のスタッフにはどのような教育をしているの?

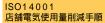
全店舗でISO14001を取得しているワタミではスタッフの意識向上のため様々な仕掛けを行っています。



# スタッフルーム

いつも目につくところに、環境行動指針やチェックするべき項目ポスターを貼って、スタッフ同士で常に環境活動への意識づけを行なっています。

### ペットボトル リサイクルについて





廃棄物の処理フロー

割箸・竹串の 分別について

プラスチック・ビニールの 分別について

# 環境ミーティング

毎日開店前、スタッフはミーティングを行い、マンスリーおよびデイリーの注意事項を確認して意識の向上を図っています。また、月に1回、店舗での環境活動に関するミーティングを行ない、自ら計画を立てて改善の実践に努めています。翌月、この計画の進捗が業務に反映されたかを確認します。

# 環境改善シートの運用

店舗では、「環境改善シート」を 用いて、電気・水・廃棄物等の環境 改善活動に対する監視測定を毎月 行ない、その結果と反省をもとに、 次月の計画を策定・実施しています。

ワタミグループでは、このシートを用いてPDCAサイクルを推進し、 全店舗・全従業員への環境活動の 浸透と継続的改善を図っています。



# 環境ビデオレター

店舗では、環境活動の新年度になる5月に、経営トップの環境に対する考え方を指し示した「環境ビデオレター」を視聴し、全員で新年度の環境活動とワタミグループの方向性を確認します。視聴日が勤務日にあたっていないアルバイトメンバーは、後日勤務時に各自で視聴し、各メンバーに対してはチェックシートにて視聴の確認と意識づけを行っています。

# ● アルバイトさんの声

お店では、ゴミの仕分けについて厳しく指導されます。「和民」で働く前は、家ではゴミの分別は燃えるゴミと燃えないゴミ程度の仕分けしかしていなかったのですが、「和民」で働くようになってから、家でもペットボトルなどきちんとリサイクルに出すようになりました。

居食屋「和民」大鳥居店 吉岡春香さん スタッフ暦:3ヶ月 環境問題のビデオを、スタッフルームで見ましたが、人間が地球や自然の前にちっぽけな存在であると感じると同時に、このまま自然環境を破壊し続けたり、何もしない事は良くないと思いました。

環境活動を通して、職場の整理 整頓にも気を使っています。

居食屋「和民」大鳥居店 江戸康彦さん スタッフ暦:2ヶ月 お店で行っている環境活動は、すでに身についている当たり前のことなので面倒くさいとか、特別なことをしているという感覚はありません。けれどもお店が忙しい時は分別が行き届かず、日頃できているところができていないと目についてしまいます。新人さんには、アルバイト同士できちんと環境行動について教えています。



居食屋「和み亭」大鳥居店 米田一実さん(左) 小指加奈子さん(右) スタッフ暦(共に)2年

# 開店前はどのような準備をしているの?

お客様に安心して入店いただけるよう、入念な準備をするとともに、省エネなど環境負荷低減にもこころ がけています。



# スタンバイ

# 清掃

開店の約1時間前より、店舗マニュアルに則って、店内のテーブル拭き、 トイレ掃除、店舗周辺外回りの掃き掃除などを行います。

# 省エネ球

新規店舗では、積極的に省エネ電球を導入し、 既存店舗でも交換時に省エネ電球 (通常の電 球に比べ、約80%電力が節約できる)に付け 替えています。



# 動力削減機

冷暖房などの空調にかかるエネルギーを削 減するため、動力削減機を設置しています。

# 動力削減機とは

エアコン室外機内部のコンプレッサーの運 転状況を感知しながら、適切なタイミングで 稼動をコントロールして、省電力化を図る機

2003年度・動力削減機導入台数:162台 (年間削減見込み電力量: 374,070kwh)

# 手洗い

お客様に食中毒を起こさないために食虫毒菌を「つけない」「増やさな い」「殺す」の3つをスローガンに、例えば手洗い方法ひとつとっても5 つの段階を経たマニュアルを設け、実践しています。

従来は、一度使用 されたら捨てられて しまうダンボールで 物資の運搬をしてい ましたが、現在は通 い箱を繰り返し使用 することにより、廃 棄物の削減をはかっ ています。



# スイッチングシール

時間帯によってつける電気、つけない電気を把握するため、スイッチ に色分けシールを貼って、ムダな電気の使用を抑えています。



関連資料:店舗電気使用量の推移、店舗水道使用量の推移 (デ P26

# 衛生管理

お客様に食中毒や健康被害がないように、衛生管理には細心の注意を 払っています。



衛生管理について詳しくは



# お店ではお客様に対してどのような配慮がされているの?

すべてのお客様に楽しんでいただけるようバリアフリー対応や点字・英字メニュー、分煙などを推進しています。



# バリアフリー

高齢者や体の不自由なお客様を考慮して、スロープの取り付け、手すりの 設置、車イスの方用のトイレなどを備えた店舗を積極的に展開しています。 スタッフがエレベーターのご案内や入店のお手伝いをしています。



(車イス用リフトは「和み亭」新江古田駅前店のみ)

# 車イス対応トイレ設置店舗一覧

P26

# バックヤード

# センサー式水道

食品衛生法では、調理、給仕に仕える者は必ずその都度手を洗うことが定められています。ワタミグループでは水の出しっぱなしを防いだり、蛇口を衛生的に保つため、センサー式の手洗い専用の水道を設置しています。

# ゴミ分別

店舗では、ゼロエミッションを念頭に、 徹底したゴミの分別を実施しています。 現在は、店舗での生産性を落とさず、アル バイトメンバーも取組みやすく、さらに その後のリサイクルの流れと整合性の取 れる10分別、関西・九州地区では5分別) を取組んでいます。





# 占字・英字メニュー

「和民」「和み亭」では点字メニューを、「和民」では英字メニューを別途ご用意しております。

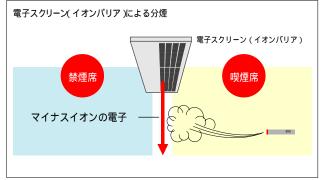
# 分煙

ワタミグループでは2001年より一部店舗で分煙を実施しています。 現在は、原則とし約1割の客席を禁煙席としています。ファミリー需要 の高い「和み亭」においては全店で約3割の禁煙席を設置しています。

また、「和民」では新たな取組みとして2003年9月の新規店舗より、電子スクリーン(イオンバリア)による分煙を実施しています。これは禁煙席と喫煙席の境目の天井に設置され、ここからマイナスイオンの電子が天井から滝のように降り注ぎ、煙が禁煙席に侵入するのを防ぎます。

今後、既存店舗においても改装時に原則として導入を行っていきます。





電子スクリーン設置店舗一覧

P26

# お店での環境配慮や社会貢献の取組みについて教えて?

消耗品のグリーン資材化をはじめとした環境配慮を徹底している他、レジ周りでは社会貢献活動の ご案内をしています。



# 割箸袋

ワタミグループでは、店舗で使用される紙の量を少しでも削減すること ができるように、2003年より割箸袋を2分の1のサイズにしました。 もちろん、使用した割箸袋は継続してトイレットペーパーにリサイクル しています。

# 紙ナプキン

2004年9月より、植林して適切に管理された植林木から作った紙ナ プキンへ変更していくこととしました。

この植林木は、荒れた土地など、もともと木のなかったところなどに、 ユーカリやアカシアなどの生長の早い木を毎年違う土地に植えていくも ので、伐採と植林を繰り返しながら行ないます。

ワタミグループ店舗には、環境に配慮した省エネルギー・省スペース の厨房機器が設置されており、これらの設計・設置はワタミエコロジー (株)によって行われています。

この施工の基本的考え方は、定期的な点検・メンテナンスを中心に、 機器の長寿命化を図り、それによってムダに買い換えることを控え、資 源を有効利用することを目標としています。

また、閉鎖や改装などによる使用済みの厨房機器は、リユース品とし て再利用することを基本としています。

# リサイクルボード

店舗でお客様が利用した割箸を木質資源としてルート回収し、ワタミ エコロジー(株)のリサイクルセンターに集積した後、まとまった単位で リサイクルボード工場に運んでいます。これらの割箸は、店舗お座敷の 下地材などとして生まれ変わり、店舗の新築や改装時に順次導入してい ます。これは循環型リサイクルの成功例となりました。

ワタミグループでは、2003年度1年間で、68 t(4,224枚 約61店 舗分)のリサイクル下地材を導入しました。

# グリーン購入の基準

本社や店舗での事務用品や備品は、グリーン商品を優先的に購入する ことを目標として、2003年度は店舗事務用品グリーン資材使用率70% を目標に取組み、結果72%の使用率を達成することができました。

また、本社内で使用される机やロッカーなどの備品は、極力リユース 品の調達を心がけ、循環型社会の形成に積極的に取組んでいます。

# 墓金箱

ワタミグループが支援する特定非営利活動法人「スクール・エイド・ジャ パン」では、子どもたちの教育支援をする活動を行っており、その募金箱 および寄付申込みパンフレットを全店舗に設置しています。

「スクール・エイド・ジャパン」について詳しくは

₽ P17

ふれあいカードはワタミグループでの特典がついた、社会貢献できる クレジットカードです。

ふれあいカードについて詳しくは



# ISO

1999年7月、日本の 外食産業で初めて、本社 および店舗において ISO14001環境マネジ メントシステムの認証を 取得しました。

ふれあいカード

ISO9001品質マネジ メントシステムの認証に ついても2002年10月 に取得しました。

ワタミグループでは、 店舗の出店に合わせて毎 レジ周り:「ISO9001」と「ISO14001」のパネル

年、認証店舗を拡大しています。

取得した店舗にはISOのパネルを掲示しています。

ISO14001について詳しくは

₽21

ISO9001について詳しくは

「和み亭」のおもちゃ

P25

「和み亭」では、ハンディキャップのある方が作った手づくりのおもちゃ などの授産品をお預かりし、レジ横にて展示して、スタッフが代行して販 売をしています。

「和み亭」のおもちゃについて詳しくは



P16

# お店が閉まった後はどのようなことをしているの?

ゼロエミッションに向けたリサイクル活動に力をいれています。首都圏100店舗でゼロエミッションを達成しました。



# 消灯

電気使用量削減のため、営業終了後は客席や看板の照明を消し、片付けも営業終了後1時間以内で終えるようにしています。

# 使用電力監視システム

2004年8月より、店舗の使用電力を一元管理するためのモニター機器を293店に導入しました。電気のムダに対してタイムリーな対策を打つ事により、2004年度は、全店舗で前年比約7%の電気使用量を削減することを目指していきます。

使用電力監視システムについて詳しくは



# 空調

空調機器も月に1回以上点検・清掃するようにしています。フィルターの清掃は、ムダな電気の使用を抑え、点検修理による機器の長寿命化に貢献します。空調機器は定期メンテナンスの実施により、電気使用量を約14%削減することができます。

# グリストラップ

厨房内から出た油や汚泥(残さを下水処理場に流れるのを防ぐグリストラップ。清掃を怠ると雑菌や汚臭の発生源となってしまうため、第1槽内網カゴの毎日清掃と定期的バキューム清掃を行っています。

また、排水の水質改善状況の検証のため、グリストラップ内の水質検査を定期的に行っています。

# 生ゴミ破砕乾燥機

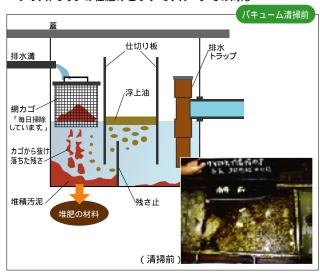
2004年8月現在、首都圏の約100店舗に生ゴミ破砕乾燥機を導入しました。

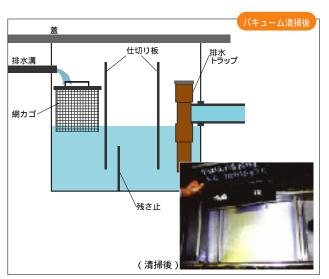
この機器を稼動させることにより、1回に25kgの生ゴミを6時間後に7kgの乾燥物にすることができます。

この乾燥物は、リサイクルセンターを経由してワタミファームに運ばれ、 農場の堆肥となっておいしい有機野菜を育て、食材として再び店舗に戻ってきます。

この生ゴミ堆肥化の実現によって、排出からリサイクル利用までを ワタミグループ内で行なえる循環の輪がつながり、いよいよグループ店 舗のゼロエミッション達成が強力に推進されました。

# グリストラップの仕組みとワタミグループでの対応





# 2004年ゼロエミッションを達成

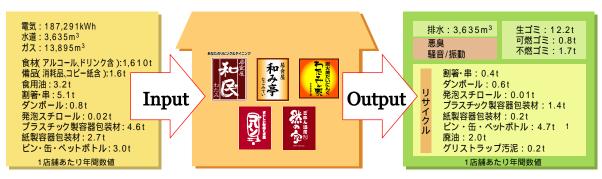
ワタミグループでは、2004年ゼロエミッション」を目標に、1998年より廃棄物の6分別からスタートしました。2002年には10分別に挑戦してリサイクルセンターを設置・稼動させることにより店舗全体の廃棄物の約40%を占める容器包装系のゴミのリサイクルに成功しました。

さらに2003年より、生ゴミ破砕乾燥機を店舗に順次導入して、店舗で破砕乾燥された生ゴミをワタミファームに運んで堆肥化することによって、店舗の全廃棄物の残り50%を占める生ゴミの減容とリサイクル化の仕組みができあがりました。



店舗活動 2003年度実績 (IN-PUT/OUT-PUT フロー図)

ワタミグループの店舗には、日々様々な原材料などの「IN-PUT(投入)」と「OUT-PUT(排出)」が発生しています。それぞれは1店舗では少ない量に思えますが、グループ店舗全体となりますと決して少ない数値ではなくなります。私たちはこれらの投入量・排出量を認識し、少しでも有効なリデュース(排出抑制)リユース(再使用)・リサイクル(再生)の3Rへの取組み方を常に模索しています。



リサイクル量: 3.0t (全店舗におけるリサイクル率 = 14.3%) リサイクルセンターへの搬入店舗(東京都23区内の店舗)のリサイクル率は42.0%  $CO_2$ 発生量 1店舗あたり): 96.7t- $CO_2$ (電気/ガス使用量で算出)

1: ビン・缶・ペットボトルのOutputの増加分は、従業員・お客様の持ち込み分、および店頭清掃時の回収によるものです。

# 使用電力監視システムの導入について

ワタミグループでは、京都議定書で定められた6%という日本 の削減目標に対して、昨今の外食を含めた商業施設による CO2の排出量増加傾向を踏まえ、私たちが排出するCO2はまず、 私たちが率先して取組んで、地球温暖化の防止に役立てなけ ればならないと考えています。

2004年8月より私たちは、エネルギーマネジメントに取組 んでいます。

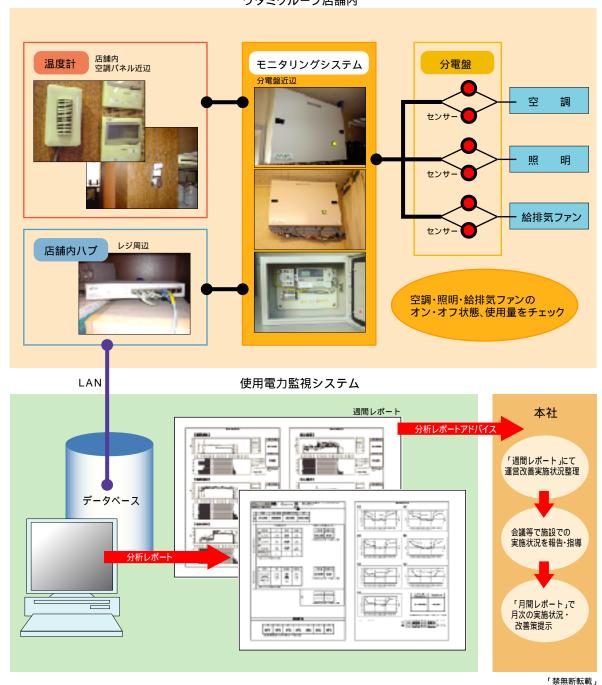
まず、手始めにワタミグループ293店舗での電気の使われ 方を24時間監視し、ムダな電気使用を発見して、その抑制を 行なうという使用電力監視システムの導入をスタートさせま

した。この仕組みの導入により、今まで原因が判らず対策が 打てなかった電気使用量に関する過負荷やムダは、店長はじ めアルバイトメンバーたちの、発生原因に対するタイムリー な対応とオペレーション改善によって排除していくことが、 できるようになります。

こうして電気の消費を抑えることは、電気コストの低減を 図るだけでなく、発電の過程に排出される膨大なCO₂の発生 を抑制し、地球温暖化防止に大きな効果をあげるとともに、 天然資源の節約につながります。

# エネルギーマネジメントの仕組み

# ワタミグループ店舗内



# 店舗外でのふれあい

店舗外の様々な場面で行われている ふれあい活動をご紹介します。

# ふれあい活動

# カンボジア学校建設 プロジェクト

「スクール・エイド・ジャパン」の 建設した校舎は累計で19校と なりました。約1万人の子ども たちが学び始めています。



# わたみ北海道自然学校

2004年度からはワタミファーム (瀬棚農場)のある北海道瀬棚町に場所を移し、農業 酪農 体験などをプログラムに加えました。



# ワタミグループではどのような社会貢献活動をしているの?

社会のあらゆる場面で「ありがとう」を集めるべく様々な社会貢献活動に取組んでいます。

# 社会活動に対する基本姿勢

ワタミグループは「地球上で一番たくさんのありがとうを集めるグループ になろう」をグループスローガンに掲げ、「企業市民」として「企業活動」 と「市民活動」の両立・共存を目指し、活動を行なっています。

# 教育

# わたみ北海道自然学校

1999年より毎年8月に小学校高学年生を対象とした「わたみ北海道自然学校」を開催しており、2003年度で5回目の開催となります。これは、子どもたちの持つ「思いやり、誠実さ、謙虚さ、感謝の心、素直さ」など、「人間が本来持っている美しい資質」を高める「きっかけ」を提供できたら、との思いから始めたイベントで、2003年度は45名の子どもたちが参加、11名の社員が先生として参加しています。





# 地域活動

# バザー

ワタミグループの社会貢献活動が本格的に始まったのは、1995年5月に施設バザーへの屋台出店からです。これらのバザーには、本部社員を中心に継続的に参加しており、2003年度は4回の開催に参加して52名の社員が参加しました。ここでは、お好焼きなどの模擬店を出店し、合計481千円を主催団体様に寄付させていただきました。グループ会社でもそれぞれの形で地域交流の一環として地域のバザーやイベントに積極的に参加し、その売上は主催団体様や「スクール・エイド・ジャパン」へ寄付をさせていただいています。



# ボランティア

# 病院ボランティア

2004年4月に設立されたワタミメディカルサービス(株)を通し、病院の、主にターミナルケア病棟(ホスピス)の入所者様たちとのレクリエーション、散歩、プランター整備などのお手伝いを定期的にさせていただくことを始めました。

ボランティアとして参加させていただくことにより、参加者が自分の目で見て・ふれあい・感じることを通して生きることについて学び、 人生について考えるきっかけをいただいています。

2004年度は合計8回の参加を予定しています。

### お食事会

1999年の7月と9月に横浜訓盲院、横浜援護授産所の方々をお迎えしてお食事会を開催。以来、ハンディキャップがあるなど社会参加の少ない方を店舗に招待し、「お食事会を通した交流会」を開催しています。

2003年度のお食事会は33回行われ、1,115名の方々を招待し、761人の社員がボランティアとして参加をしました。この活動を通して、あたたかな思い出を提供するとともにサービスの原点であるホスピタリティーを学び、一人ひとりが人に優しい心を持てるような機会をいただきました。



# ふれあいカード

1996年11月より「未来の子どもたちのために」をテーマに始めたふれあいカードは、グループ店舗での利用時にも特典を受けられるクレジットカードで、年間の国内ワタミグループでの利用総額の1%以上を社会貢献活動を行う団体へ寄付しています。

2003年度は8,554,582円を「スクール・エイド・ジャパン」に寄付させていただきました。





# 「和み亭」のおもちゃ

ワタミグループでは、ハンディキャップのある方々の社会参加を後押しさせていただくことも重要だと考えており、1999年6月より「和み亭」店舗にショーケースを設置し、「授産品」の販路を広げるお手伝いをしています。(2004年3月末現在37店で設置)

2004年4月より、「NPO法人日本セルプセンター」との協力を開始し、全国571団体で働く方々への支援をするきっかけをつくりました。これらの製品は、店舗近隣の地域作業所やセルプの方々がボランティアの方々と共に心を込めて作られています。

2003年度は1,350千円を代行販売させていただきました。





# 1%クラブ

1997年8月より、日本経済団体連合会の1%クラブ(経常利益の1% 相当額を自主的に社会貢献活動に支出しようと努める企業や個人の連合 会)に加入し、数値目標をもってプログラムを推進しています。

1%クラブのホームページ http://www.keidanren.or.jp/1p-club

# 特定非営利活動法人「スクール・エイド・ジャパン」の支援

「自分たちの手で行なう社会貢献」をテーマに、ワタミグループ各社と全社員が支援する特定非営利活動法人「スクール・エイド・ジャパン(SAJ)」を2001年3月に設立しました。

スクール・エイド・ジャパンの活動費は、ワタミグループの役員、社員、 並びにアルバイトメンバーによる寄付・ワタミグループ店舗内募金箱・ ワタミふれあいカード寄付活動が中心となっています。

「スクール・エイド・ジャパン」について詳しくは



P17

# 養護学校との交流

「地域の方々との交流を通し、地域社会に貢献していくこと」を目的として、ワタミ手づくり厨房相模原センターの従業員と相模原養護学校との交流を始めました。この一環で2004年3月には養護学校の卒業式に参加し、卒業生をお祝いしました。このような活動を続けながら、さらに地域との交流を深め、地域への貢献を目指して行きたいと考えています。

# ボランティア研修

1997年4月に、横浜ボランティア協会との協力で新入社員が地域の作業所を訪問しボランティア活動を行うプログラムを導入。以降、新卒社員の入社時研修として4月に行われています。2003年度は295人が52の作業所などの施設で研修を行いました。



# 環境活動

### 地域清掃・美化活動

本社・ワタミファーム・ワタミ手づくり厨房・FLOWER KITCHEN およびワタミグループの店舗近隣地域にて地域の清掃を行なっています。 迷惑駐輪の整理や歩道・道路の清掃には、2003年度は105名が参加しました。この活動は、環境意識の啓発を行うと共に現在も継続的に活動を行なっており、地域の環境向上に貢献しています。



# 1000000人のキャンドルナイト

ワタミグループでは地球温暖化問題を 真剣に考え、CO2削減にグループをあ げて取組んでいます。その一つが2004 年6月20日に実施された

「1000000人のキャンドルナイト」です。「でんきを消して、スローな夜を」をテーマに様々な団体・企業が全国で取組み、ワタミグループでは20時~22時まで国内ワタミグループ399店舗の看板を消灯し、6月20日の20時時点でご来店中のお客様全組様にまれいばいたよいセージカードを

キャンドルとメッセージカードを お渡ししました。



# 海外支援はどのような活動をしているの?

「自分たちの手で行う社会貢献」をテーマにNPO法人「スクール・エイド・ジャパン」を設立・支援しています。 主な活動として海外の子どもたちに教育環境と教育機会を提供しています。

# 「スクール・エイド・ジャパン」について

「自分たちの手で行う社会貢献」をテーマに、開発途上国への支援を願う社員の思いを形に変えて、2001年3月に神奈川県知事より認証(3月5日法人登記申請)を受け、ワタミグループ各社と社員全員が支援する特定非営利活動法人(NPO法人)「スクール・エイド・ジャパン(SAJ)」を設立、活動を開始しました。

# 活動目的

スクール・エイド・ジャパンは、「一人でも多くの子どもたちに、人間性 向上のための教育環境と教育機会を提供する」ことを目的としており「子 どもにかかわる教育支援プロジェクト」に積極的に取組んでいます。

その具体的な活動として小学校教育を中心に、教育環境の提供(学校建設支援、教材・教具・図書の提供)教育機会の提供(学費里親制度としての「ふれあいサポート・プラン」)等の支援活動を行っています。

# 教育支援3つの方針

スクール・エイド・ジャパンは、教育支援を行う上で3つの方針をもとに 行っています。

# 学校教育を充実させる

開発途上国においては、学校教育は子どもの基礎学力の向上を組織的、 効率的に行うために特に重要な役割を果たします。より多くの子どもた ちが教育を受けられるよう、小学校教育を中心とした支援活動を行いま す。

# 地域に根ざした支援

支援対象地域の状況に合わせた教育支援活動を行います。

# 点から面への支援

一地域からその周辺のより広い地域への教育の浸透が図られることを

# ふれあいサポート・プラン

貧しくて入学できない、退学をしなくてはいけない子どもたちの支援 をし、「教育機会の向上」を目指す制度です。

具体的には、スクール・エイド・ジャパンが「学校建設支援」を行った学校の子どもたちの中から、貧困家庭(親が病気で働けない、親に定職がなく収入が少ない、田畑がない・田畑が洪水で水没し収穫がないなど)の子どもたち、親のいない子どもたちに、年間、制服1着、ボールペン8本、ノート20冊を提供し、学校に通えるように支援します。

サポーターの方には、支援を受けている子どもたちの写真を撮り、子どもたちが書いた手紙等を添えて送付します。 遠い国の様子を垣間見ることができ、遠い国の子どもたちと手紙で交流ができることが大きな魅力です。

2003年度は、カンボジアのトモケオ・スラッカエル両校の163人の子どもたちを対象に試験導入を行いました。その結果、出席率が良くなり、成績も向上するなどの効果が見えました。親、先生からは「子どもたちが学校を楽しみにしています。子どもたちのためにも、ぜひ継続して支援を行ってください。」との声があがり、州教育局もこの制度の効果に着目していただいています。

スクール・エイド・ジャパンは今後、より効果の高い教育支援のため に、この制度を推進していきます。







日本の小学校で児童にカンボジアの子どもの生活を話しています。子どもたちが自発的に募金活動をして、井戸を贈ってくれました。

# スクール・エイド・ジャパンへのご支援方法

# 会員

年間の支援会費額により2つの支援方法があります。 スクール・エイド・ジャパンの活動は、継続して支援していただく会 員の皆様のご協力によって成り立っています。

1 1口:年額12,000円

2 1口:年額6,000円

# 寄付

(使途限定)

個人で、グループで協力して・・・、などさまざまな支援方法があります。

一般寄付 金額の規定はありませんので、 (金額自由) お気持ちでご協力ください。

①学校建設寄付(1口10万円) カンボジアで学校建設を支援する制度です。約350万円で、 指定寄付

1棟(5教室)・トイレ2つ・井戸1つが目安です。

②ふれあいサポート・プラン (学費里親制度、1口:12,000円) 子どもの学費1年分を支援する制度です。

# 皆様のご支援・ご協力を心よりお待ちしております。

【会費・寄付金のお振込みは】

郵 便 局:00220-8-64660

三井住友銀行:蒲田支店 普 3689367

口座名:特定非営利活動法人スクールエイドジャパン

ワタミグループ店内では払込用紙をレジにご用意しました。レジ係にお申し付けください。

# School Aid Japan





2003年度は、カンボジアに合計9校の建設(29,376,769円) 文具や教材・教具の支援(185,649円)「ふれあいサポート・プラン」試行(72,411円)を行いました。 なお、2004年度 は16校(17校舎)の建設を予定しています。

今後の数年間の計画は、カンボジアを中心に活動を行っていきますが、カンボジア国内においても、より支援を必要とする地域へと、支援の手を広げていきたいと考えています。

そして、将来的には、ネパールやモンゴルなどの他のアジア の支援も進め、教育環境と教育機会の提供をしていきます。



支援実績

竣工年月	国・地域	学校名	規模	その他支援
2002年2月	カンボジア・コンポンチュナン州	トモケオ小学校(第1校舎)	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2002年6月	カンボジア・コンポンチュナン州	トモケオ小学校(第2校舎)	5教室・9m×40m	黒板・机・椅子
2002年6月	カンボジア・コンポンチュナン州	スラッカエル小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年2月	カンボジア・コンポンチュナン州	プリエル小学校	5教室・9m×24m	黒板・机・椅子
2003年6月	カンボジア・コンポンチュナン州	スラッカバス小学校	3教室・9m×24m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年8月	カンボジア・コンポンチュナン州	クランサモー小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年8月	カンボジア・コンポンチュナン州	ロリャンニック小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2003年8月	カンボジア・プレイヴェン州	ボーアングウッド小学校	5教室・9m×40m	黒板・机・椅子
2004年3月	カンボジア・コンポンチュナン州	トアップスロウ小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年3月	カンボジア・ポーサット州	コラップ小学校	5教室・9m×40m	井戸・黒板・机・椅子
2004年3月	カンボジア・コンポンチュナン州	チョンロットダイ小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年3月	カンボジア・コンポンチュナン州	チョンボプラサート小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年3月	カンボジア・プレイヴェン州	ソビン・スワイサムサップ小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年3月	カンボジア・クラチエ州	コローアップ第1小学校	4教室・9m×32m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年8月	カンボジア・コンポンチュナン州	キエンタマー小学校 1	5教室・9m×40m	黒板・机・椅子
2004年8月	カンボジア・コンポンチュナン州	オーローイ小学校	3教室・9m×24m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年8月	カンボジア・コンポンチュナン州	ロンナカイ小学校	3教室・9m×24m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年8月	カンボジア・プレイヴェン州	スワイアット小学校	5教室・9m×40m	トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年8月	カンボジア・クラチエ州	ア・ロウチ小学校	3教室・9m×24m	黒板·机·椅子
	2002年2月 2002年6月 2002年6月 2003年2月 2003年8月 2003年8月 2003年8月 2004年3月 2004年3月 2004年3月 2004年3月 2004年3月 2004年3月 2004年3月 2004年3月 2004年3月 2004年8月 2004年8月 2004年8月	2002年2月 カンボジア・コンポンチュナン州   2002年6月 カンボジア・コンポンチュナン州   2002年6月 カンボジア・コンポンチュナン州   2003年2月 カンボジア・コンポンチュナン州   2003年6月 カンボジア・コンポンチュナン州   2003年8月 カンボジア・コンポンチュナン州   2003年8月 カンボジア・コンポンチュナン州   2003年8月 カンボジア・プレイヴェン州   2004年3月 カンボジア・コンポンチュナン州   2004年3月 カンボジア・コンポンチュナン州   2004年3月 カンボジア・フレイヴェン州   2004年3月 カンボジア・プレイヴェン州   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州	2002年2月 カンボジア・コンポンチュナン州 トモケオ小学校(第1校舎)   2002年6月 カンボジア・コンポンチュナン州 トモケオ小学校(第2校舎)   2002年6月 カンボジア・コンポンチュナン州 スラッカエル小学校   2003年2月 カンボジア・コンポンチュナン州 プリエル小学校   2003年6月 カンボジア・コンポンチュナン州 スラッカバス小学校   2003年8月 カンボジア・コンポンチュナン州 ロリャンニック小学校   2003年8月 カンボジア・プレイヴェン州 ボーアングウッド小学校   2004年3月 カンボジア・プレイヴェン州 トアップスロウ小学校   2004年3月 カンボジア・コンポンチュナン州 チョンボブラサート小学校   2004年3月 カンボジア・コンポンチュナン州 チョンボブラサート小学校   2004年3月 カンボジア・プレイヴェン州 コローアップ第1小学校   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州 キエンタマー小学校 1   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州 オーローイ小学校   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州 ロンナカイ小学校   2004年8月 カンボジア・コンポンチュナン州 スワイアット小学校	2002年2月 カンボジア・コンポンチュナン州 トモケオ小学校(第1校舎) 5教室・9m×40m   2002年6月 カンボジア・コンポンチュナン州 トモケオ小学校(第2校舎) 5教室・9m×40m   2002年6月 カンボジア・コンポンチュナン州 スラッカエル小学校 5教室・9m×40m   2003年2月 カンボジア・コンポンチュナン州 プリエル小学校 5教室・9m×24m   2003年6月 カンボジア・コンポンチュナン州 スラッカバス小学校 3教室・9m×24m   2003年8月 カンボジア・コンポンチュナン州 クランサモー小学校 5教室・9m×40m   2003年8月 カンボジア・コンポンチュナン州 ボーアングウッド小学校 5教室・9m×40m   2004年3月 カンボジア・コンポンチュナン州 トアップスロウ小学校 5教室・9m×40m   2004年3月 カンボジア・コンポンチュナン州 チョンボブラサート小学校 5教室・9m×40m   2004年3月 カンボジア・コンポンチュナン州 チョンボブラサート小学校 5教室・9m×40m   2004年3月 カンボジア・プレイヴェン州 ソビン・スワイサムサッブ小学校 5教室・9m×40m   2004年3月 カンボジア・フンボンチュナン州 コーアップ第1小学校 4教室・9m×32m   2004年8月 カンボジア・コンボンチュナン州 キエンタマー小学校 1 5教室・9m×24m   2004年8月 カンボジア・コンボンチュナン州 オーローイ小学校 3教室・9m×24m   2004年8月 カンボジア・コンボンチュナン州 スワイアット小学校 5教室・9m×24m   200

# 支援計画

着工予定年月	竣工予定年月	国・地域	学校名	規模	その他支援
2004年11月	2005年3月	カンボジア・コンポンチュナン州	プノムタサン小学校	5教室・9m×24m	トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・コンポンチュナン州	チイアンリューング小学校	3教室・9m×24m	トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・クラチエ州	プレックチャムラク小学校	5教室・9m×40m	トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	ブンカンテュット小学校	5教室・9m×40m	黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	チュークミッス小学校	5教室・9m×40m	黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	オーサンダン小学校 2	3教室・9m×24m	黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	プットトリーム小学校	3教室・9m×24m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	ソーフィー小学校	3教室・9m×24m	トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	ブングコク小学校	3教室・9m×24m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	ユースヴィネイ小学校	5教室・9m×40m	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子
2004年11月	2005年3月	カンボジア・ポーサット州	チュウトム小学校 2	(5教室·9m×40m)x2棟	井戸・トイレ棟・黒板・机・椅子

1:日本NGO支援無償資金協力による。 2:

2:日本NGO支援無償資金協力を申請予定。

# 環境に関してどのようなコミュニケーション活動をしているの?

環境展への参加やエコツアーなどを開催して、みなさまとのふれあいに努めています。

# エコツアー

全従業員及び一般の方々を対象として、自覚教育および啓発活動の一 環として環境関連施設の見学会「エコツアー」を継続開催しています。 中でも「ワタミエコロジーリサイクルセンター」では、企業、学校法人、 インターンシップの学生等の要望に応じて随時、見学会を実施しております。 2003年度は他施設見学を含め全3回実施し、合計で393名の参加が ありました。

第1回 2003年3月~4月	ワタミグループ新卒社員エコツアー (リサイクルセンター ~ ワタミファーム ~ ワタミ手づくり厨房)
第2回 2003年8月	神奈川大学・経営学部研究室・リサイクルセンター見学会
第3回 2003年11月	自由参加エコツアー (リサイクルセンター ~ ワタミファーム ~ リサイクルボード工場)

# 環境啓発活動

環境サークルや大学、専門学校の要望に応じて、企業における環境活 動事例の紹介等の講習会を各施設にて実施しています。

また、一般の方々へワタミグループの環境活動の取組みの一端を理解 していただくために、自治体主催の「環境展」にも継続して出展していま 環境展への出展は今年で4回目となりました。

		6月	東京商科学院・環境学習 < ISO14001、ワタミグループの環境活動他 >
	2003年	12月	エコプロダクツ環境経営実践推進セミナー 〈日本環境経営大賞授賞事例発表〉
		12月	日食新聞・食品品質環境マネジメント研究会 < ISO認証取得と活動について >
	2004年	2月	環境展「大田区エコフェスタ (中萩中小学校にて)開催
		3月	神奈川県庁ISO14001研究会 < ワタミグループの環境経営戦略 >



# ワタミヘルプライン開設

ワタミグループは、グループ内に存在する問題を広く受付け、積極的に問題を解決し、自己改善、自己自浄 のできる「いいグループ」となることを目指します。システムとして企業の社会的責任に対応するため 「メールによる情報収集窓口」を社内外に開設しました。

もし思い当たることがあれば

窓口へ、Eメールにて

ご連絡ください。



# 受付体制の説明

ワタミグループ企業の 法令·契約違反

不当な要求や地位の濫用

店舗で使用する食材の品質にかかわること など、私たちが社会の信頼を失う可能性のある内容に

ついて、Eメールによる情報提供をお願いします。 お願い:情報のご提供は「実名」が原則となっております。

(通報者守秘義務の約束の項をご覧ください。)

通報者守秘義務の約束 ワタミ社内の「ヘルプラインブロジェクト」とインテグレックス社の「ヘルブライン」は、 通報者の秘密を守ります。

# 報復埜止の約束

通報者がヘルプラインに情報を提供することでワタミグループから報復を受けることはありません。

# 受付窓口

Eメールの受付窓口は

ワタミグループ内窓口」と「外部に委託した窓口」の2つあります。 グループ内窓口は社内独立組織の「ヘルプラインプロジェクト」がメールを受付け、対応します。 w-helpline@watami.net

外部委託の窓口は(株)インテグレックスに設置されており、通報者の所属や氏名などを 伏せてワタミ社内の「ヘルプラインプロジェクト」に情報が提供されます。

w-helpline@integrex.ip

法令上の義務を負う場合を除き、本人の了解なく氏名などがワタミ側に情報提供されることはありません。 インテグレックス社は「企業の社会責任を支援する会社」で、連絡者とワタミグループの間に入り中立性を維持します。

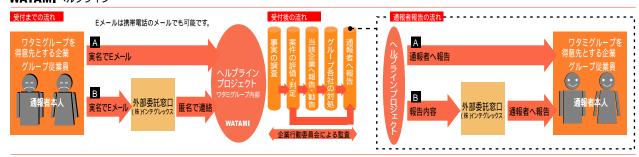
インテグレックスホームページ http://www.integrex.jp/

A ワタミヘルプラインプロジェクト

Eメールは携帯電話のメールでも可能です。 w-helpline@watami.net

B(株)インテグレックス(外部委託会社) w-helpline@integrex.jp

WATAMIヘルプライン



# 本部・本社での取組み

様々な活動の裏側にある体制や仕組み 活動の結果などをご紹介します。

# グリーン調達の推進

# 店舗備品のグリーン資材の 積極導入

新規店舗への事務用品等の備品 供給は、目標値のグリーン資材 使用比率72%を達成しました。 2004年度も継続して取組み、 さらに使用率75%を目指して いきます。



# ペットボトルを原料として 作成した製品を積極的に利用

毎年、新入社員に対しては、ペットボトル100%の制服用ブレザーを配付しています。2003年度は444着(311kg)を配付し、新入社員に循環型リサイクルの必要性を実例をもって意識付けしました。



# ワタミグループの環境管理はどのようになっているの?

ワタミグループは環境方針の下、ワタミエコロジー(株)とスクラムを組んで「環境貢献」を実践しています。

### 環境方針

# 環境基本方針

ワタミグループは、「安全・安心」な食材をより多く確保してお客様に提供するとともに、 地球や自然にやさしい環境の保全に貢献することを当グループの責務と考え、すべての店 舗および事業所を対象とした環境負荷の削減を図るための可能な限りの努力を行います。

# 環境方針 2003年5月1日

- 1. ワタミグループは、環境基本方針の理念にもとづき事業活動の中で環境影響の大きな項目について、環境目的・目標を設定して取組み、その結果を見直していきます。
- 2. 特に以下の項目に取組むために具体的な環境行動計画を策定し、継続的改善および 汚染の予防をお約束します。

電気使用量の削減(店舗) 水使用量の削減、排水の水質改善(店舗) 生ゴミ廃棄量の削減(店舗) 紙使用量の削減(本社) リサイクルシステムの構築

- 3. ワタミグループの活動に関連する環境法規制および当グループが同意するその他の要求事項を順守します。
- 4. ワタミグループのすべての従業員に対して継続的に教育を行い、環境に対する意識を 高めるとともに本方針の浸透を図ります。
- 5. 本方針を適切な機会をとらえて積極的に公開し、開示要望にお応えします。

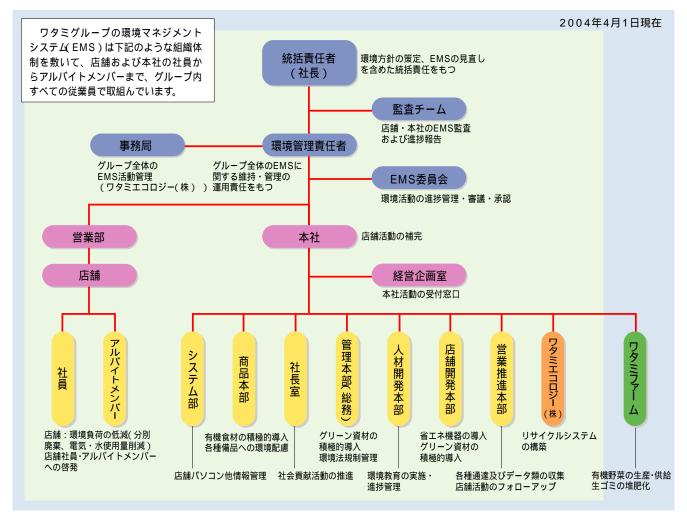
# ISO14001の取組み

ワタミグループは1999年7月に、日本の外食産業として初めて、本社および全店舗にてISO14001環境マネジメントシステムを取得しました。2002年7月に3年間の認証期間を無事終了することができましたので、同月に審査対象店舗、範囲を拡大し改めて認証を取得いたしました。2004年7月現在の認証対象サイト数は、384店舗、1本部、2事業所、2グループ会社の合計389となっています。

私たちはこれからも対象店舗、活動範囲を広げなが

らシステムのPDCAの仕組みを活用して、環境活動の継続的改善を図っていきます。





ワタミエコロジー(株)は2004年7月1日にジャパン・リテイル・メンテナンズ(株)より社名変更されています。

# ワタミグループの環境目標はどのようなものがあるの?

お店での環境負荷低減目標から有機野菜の使用率拡大まで様々な目標を設定して活動しています。

2003年度目標・実績 および2004年度目標

環境目的	2003年度目標	2003年度結果	2004年度目標
電気使用量の削減(店舗)	既存店使用量(2002年度対比) 現状維持	既存店前年比:87.3% (12.7%削減) 1店舗平均:187,291kWh 全店計:62,255,412kWh	既存店使用量(2003年度対比) 7%削減
水使用量の削減 店舗)	既存店使用量(2002年度対比) 現状維持	既存店前年比:89.9% (10.1%削減) 1店舗平均:3,635m <sup>3</sup> 全店計:1,208,074m <sup>3</sup>	既存店使用量(2003年度対比) 2%削減
水質の改善(店舗)	水質測定値[3項目] (2002年度対比) 10%削減	BOD前年比:84.6% (436mg/L 15.4%削減) SS前年比:112.5% (199mg/L 12.5増加) ノルマルヘキサン前年比:123.1% (159mg/L 23.1増加)	水質測定値[3項目] 下水道法基準値内維持
生ゴミの廃棄量の削減 店舗)	既存店生ゴミ廃棄量 15%削減	既存店前年比:78.7% (21.3%削減) 1店舗平均:12.1t 全店計:4,041t	既存店生ゴミ廃棄量 (2003年度対比) 25%削減
廃棄物リサイクル率の向上(店舗)	分別廃棄遵守率90%	分別廃棄遵守率62.1%	分別廃棄遵守率90%
紙使用量の削減( 本社 )	コピー用紙使用量 出店伸び率対比現状維持	出店伸び率対比:92% (8%削減) 出店伸び率:118% コピー使用量前年比:109%	コピー用紙使用量 出店伸び率対比10%減少
グリーン資材の導入	店舗用事務用品 グリーン資材使用率70%	グリーン資材使用率:72% 購入金額:1,243千円	店舗用事務用品 グリーン資材使用率75%
リサイクルシステムの構築	生ゴミ破砕乾燥機 100店舗導入	23区内 73店舗導入	生ゴミ破砕乾燥機 稼働率100%
法律の順守	新店適合性のチェック 実施率100%	実施率100%確保(63店舗)	新店適合性のチェック 実施率100%
教育訓練の実施	グループの全新入社員への 自覚教育実施率100%	実施率100%確保 (全新入社員394人)	グループの全新人社員・ 店長候補社員への 環境教育実施率100%
JAS有機野菜・食品の使用率拡大	使用率35%	使用率平均24%、 2004年3月は30.6%達成 全野菜使用量 8,297t 有機野菜使用量 2,019t	使用率35%
添加物の削減	_	-	削減対象40アイテム 計1t削減

廃棄物の1店舗あたり原単位は、2003年度平均の334店舗で換算しています。 : 既存店比較店舗数は308店舗です。

# 環境にどのくらいお金をかけてどのような効果があったの?

毎年4億円程度の環境コストをかけて、CO2削減などで効果が表れています。

# ワタミグループの環境会計

環境会計の集計範囲は、ワタミグループの本社および全直営店舗で2003年4月から2004年3月までに環境保全・管理活動のために支出した投資と費用の額です。

それぞれの活動ごとにコスト項目を特定し、金額を集計しています。 ワタミグループでは環境保全コストを大きく3つに分類しました。

- (1)店舗・本社における環境目的・目標を達成するための活動に関わるコスト(目的・目標コスト)
- (2)環境法規制に対応するために必要なコスト(法規制対応コスト)
- (3)環境マネジメントシステムの適切な運用・維持を図り、環境パフォ
- ーマンスを改善していくために必要なコスト (環境活動コスト)

# 集計結果(経済効果)

2003年度の環境保全コストは405百万円でした。その内の約45%が目的・目標コストにあたります。店舗での環境活動を徹底させるためのスタッフ教育と店長およびマネジャーによる実施状況確認と徹底に向けたミーティング、清掃作業への支出が含まれます。また、残り55%には、店舗から出る一般廃棄物、粗大ゴミ、廃油の委託処理費用、環境担当者の人件費、水質等の検査費用、新規取組みへの研究費用が含まれます。

2003年度の既存店における省エネ・節水対策効果は、今年度も確実に現れ、今年度の活動のコスト削減効果は約310百万円となりました。

# CO2(地球温暖化ガス)の把握と削減効果

2003年度の活動結果によるCO2削減効果は、2,764t-CO2になりました

ワタミグループでは、2004年、地球温暖化ガスであるCO2の排出量の把握とその削減について、第一優先の課題として取組んでいます。

このCO2への認識を高めるために現在、外部から講師を招いて勉強会や報告会を行なうとともに、CO2排出量 および削減量などの情報を、毎週全従業員に向けて発信しています。

これらの進捗は、今後、ふれあい報告書にて毎年発表していく予定です。

環境保全コスト集計表 (単位:千円)

	コスト項目		具体的な取組み	コスト	
		従業員の教育と店長による実施状況チェック	節電・節水・ゴミの分別の徹底とチェック	29,457	
		電気・水使用量の削減	動力削減機の導入	37,296	
	店舗	排水の水質改善	グリストラップの管理・水質検査	37,512	
目的:		生ゴミ、可燃物・不燃物廃棄量の削減	カット野菜の積極導入、ロス削減、 生ゴミの水切り徹底 他	1,022	
目標コスト		グリーン資材の導入	エコ商材ユニフォーム( ブレザー )の導入	6,660	
スト	本社		紙の使用量削減	会議資料ペーパーレス化促進、 部署別紙使用量データのフィードバック他	0
		リサイクルシステムの構築	リサイクル・ゼロエミッション活動の計画・運用 (リサイクルセンター運営、EMS委員会活動他)	64,819	
		環境教育	従業員への教育の実施	2,528	
			小計	179,294	
		適正な廃棄物処理	廃棄物の委託処理	213,802	
	法規制対応 コスト 適合性チェック		環境法規制の適合性チェック	492	
			小計	214,294	
	環境活動 環境マネジメントシステムの管理活動 コスト		環境保全活動の推進、環境監査の計画的実施	10,917	
合	404,505				

店舗における経済効果(前年比較)

(単位:千円)

•	(12:113)
効果項目	既存店の削減額
省エネルギーの推進	167,743
節水の推進	86,502
廃棄物処理委託費 (リサイクルによる差益含む)	55,424
合 計	309,669

店舗におけるCO2削減効果(前年比較)

(単位:t-CO2)

	(単位:1-602)
効果項目	既存店の削減量
省エネルギーの推進(電気)	2,982
省エネルギーの推進(ガス)	292
省エネルギーの推進(水)	7 4
合 計	2,764

既存店比較対象店舗数:308店舗(2002年度末店舗数)

# 社員への環境意識向上策はどのようなものがあるの?

座学から農業研修まで幅広いメニューがあり店長認定にも環境教育が必須です。

# 環境教育

ワタミグループでは全従業員および一部のお取引先を対象として、環境活動の理解と環境マネジメントシステムのより深い浸透を実現するために様々な研修やセミナーを実施しています。

### ビデオレター視聴

経営トップによる、ワタミグループの環境活動の考え方や当年の行動 指針の発表などをビデオに収録し、中途入社の社員、アルバイトメンバー をはじめ全従業員に毎月(年1回は環境に特化した内容)視聴してもら うことにより環境意識の浸透を図っています。

### 新入社員研修

入社した全社員に対して、現状の環境問題を含めてワタミグループが 環境活動に取組む意義について説明し、各人に一企業人としての環境活 動に対する決意表明をしてもらっています。

# 店長研修および店長認定セミナー

ワタミグループでは、店舗の環境活動は店長が中心となって推進していきます。店長には環境活動を十分に理解してもらうために、毎年1回、また新しく店長に昇格する際には店長認定セミナー時に環境手順教育を組入れて、理解浸透を図っています。

# 店舗環境ミーティング

店舗では毎月1回ミーティングを行い、店長がアルバイトメンバーに対して自店の環境活動の進捗と反省を報告し、意見交換をします。この中で、店長は反省を踏まえた改善計画を立て、次月の取組みを決定します。この取組み内容を全アルバイトメンバーに通知して次月の行動に反映させ、活動の継続的改善を実践しています。

# 本部社員研修

本社では、毎年度始めに本社における当年度の取組み内容と考え方を 伝える説明会を実施しています。これを受けて、従業員からは当年度に おける環境活動に対するコメントを各自提出させ、意識の向上と環境活 動の周知徹底を図っています。

# ISO特別セミナー

ワタミグループでは、グループ会社、店舗のマネージャー、本部EMS 委員、内部監査員等に向けて環境問題やEMS活動に関する理解浸透および監査員の養成などの専門教育を実施しています。これら教育を通して、グループ会社への環境活動の浸透および社員の専門性の向上を推進しています。

# 2003年度環境教育

	研修名	研修目的
全従業員	ビデオレター視聴	自覚教育
店舗社員	新入社員研修	自覚教育
	店長認定セミナー	EMS理解浸透・手順教育
	店長研修	EMS店舗手順教育
店舗従業員(アルバイト)	店舗環境ミーティング	EMS店舗手順教育
営業部課長、エリアマネジャー	ISO特別セミナー	EMS理解浸透・専門教育
本部社員	本部社員研修	EMS本社手順教育
EMS委員	ISO特別セミナー	EMS専門教育(廃棄物理解浸透)
監査室・グループ会社	ISO特別セミナー	EMS専門教育(内部監査員養成)
グループ会社	ISO特別セミナー	自覚教育

# 農業研修

1998年に、北海道帯広市にて契約栽培を始めたことをきっかけに始まったこの研修は、ただ単に、契約栽培で生産を委託するのではなく、店長を中心とする従業員自らが直接農業に関わることにより、食材に対する知識を広め、普段の店舗営業に活かしていくことや、直接、自然に触れることによって、環境への関わりを考えることなどを目的としています。

2002年度からは、ワタミファーム(千葉県・群馬県)に場所を移し、有機農業に関する講義なども行い、更に充実した内容で規模を大きくして研修を行っています。

2003年度は98人が参加しました。2004年度は130人の参加を予定し7月までの4ヶ月で44名の参加が終了しています。

# 農業研修参加者人数

(人)

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
参加社員人数	43	82	86	36	98	130(予定)

2002年度は、ワタミファームへの会場切り替え準備のため 上半期の実施を見合わせたため、参加人数が減少しています。



ワタミファームでの農業研修



# お店や本社のリスクチェックはどうしているの?

法規制順守をはじめ、各種監査によってリスクの早期発見・予防に努めています。

# 環境法規制の順守

2003年度は、2006年度より施行される「食品リサイクル法」に向けて、ワタミグループの長年の課題であった生ゴミの減容とリサイクル化に取組みました

5月より3店舗にて、生ゴミ破砕乾燥機をテスト稼動させてオペレーションの標準化や機器の機能チェックを行い、2003年度は最終的に73店舗に導入して、生ゴミリサイクルの仕組みをスタートさせました。

また、店舗運営に関わる「騒音・振動」「悪臭」「廃棄物」等の法規制に関しては、チェック機能の強化と再発防止に向けた取組みを継続して行なっています。

# SIPの実施 (SIP: スタンダード・インポータント・パトロールの略)

店舗監査のフォローアップの一環として、監査担当の社員以外の本部社員による店舗監査(SIP)を各店ごとに年3回行っています。このSIPは、通常の監査の様な抜き打ちでの実施ではなく監査実施日程および監査項目(100項目)を事前告知し監査を行うことで清掃や書類管理などを、一定の周期であるべき姿(スタンダード)を確認することを大きな目的としています。

これは、日頃店舗運営から離れている本部社員が、店舗に入店することにより現場の要望を吸い上げたり、店舗と本部の間の問題点を共有化していく上で、大変有効な手段となっています。

# 衛生検査

店舗では、半年に1回、抜き打ちで衛生検査があり、微生物、温度、清掃・洗浄状況、解凍、備品、害虫対策他、全16分野、計48項目の監査項目があり、点数評価により衛生状態を確認しています。検査結果は随時、会社全体の業務改革会議で報告し、改善指導を行っています。

さらに、定期的に外部からの衛生検査を導入して、腸内検査なども行い、食中毒を持ち込まない仕組みを構築しています。改善状況の確認を 徹底しています。

2003年度は、グループ全店でのベ760回の検査が行われました。



# ISO9001の取組み

2002年10月に、ISO9001 品質マネジメントシステムの認証を、本社および「和民」(255 店舗)・「和み亭」(29店舗)の 全店舗で同時に取得しました。

月間のお客様満足度80%、 クレーム0件を目標とし、サービ スの品質の維持、向上に取組ん でいます。

ISO14001環境マネジメントシステムに加え、これら2つのマネジメントシステムの併用により、店舗における環境活動を含めたサービスの品質を追求し続けています。



# 品質方針

- 1、商品が美味しいこと
- 2、商品がタイミングよく提供されること
- 3、商品が均一化されていること
- 4、メンバーが親切なこと
- 5、メンバーに笑顔があふれていること
- 6、メンバーに活気があること
- 7、メンバーが礼儀正しいこと
- 8、店舗は清潔であること
- 9、明朗会計であること
- 10、QSCのバランスにおいて 価格が安いこと

品質目標

「お客様満足度80%・クレーム0件」

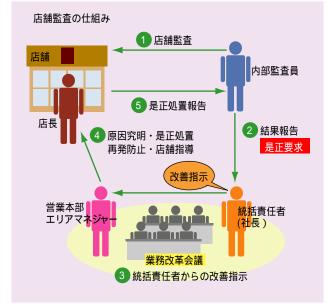
# 内部監査

# 店舗監査

店舗の環境活動の進捗確認は、ワタミグループの業務監査と同じタイミングで実施しています。そのなかで、監査員は主に環境活動の進捗を含めた従業員への浸透度、法規制の遵守状況などをチェックし、随時、会社全体の業務改革会議にて、統括責任者、営業部宛に是正処置要求を含めた結果報告をしています。

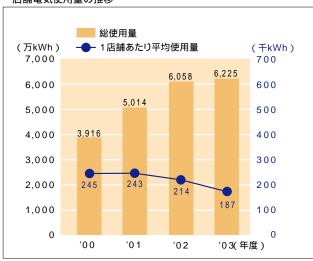
# 本部監査

本社の各部署における環境活動の進捗確認は、毎年2回本社にて実施 しています。この監査の結果は、店舗監査同様に統括責任者に報告され、 最終的に是正予防処置の最終確認まで行って継続的な改善に努めていま す。



# データ集

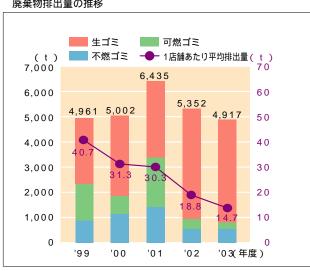
# 店舗電気使用量の推移



# 店舗水道使用量の推移



# 廃棄物排出量の推移



### 「和み亭」のおもちゃの代行販売

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	
実施店舗数	2	12	18	26	39	
売上盆 千円)	未集計	497	988	1,251	1,350	

### お食事会

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
実施回数	2	16	22	32	33
参加社員人数	45	283	319	556	761
招待人数	107	486	491	1,131	1,115

# ボランティア研修

	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度
参加社員人数	41	60	153	174	295
訪問施設数	21	18	22	40	52

# 電子スクリーン設置店舗一覧

2004年7月末現在

# 居食屋「和民」

草加西口 / 上本町駅前 / 練馬 / 富士北口駅前 / 神保町 / 京急久里浜駅前 / JR津田沼北口 / 錦三伊勢町通 / 新宿御苑前/ 鶴川北口駅前 / 北新地御堂筋 / 水道橋西通り / 三田 / 南船場心斎橋筋 / 堺筋本町駅前 / 高崎西口駅前 / 四ツ谷麹町口/ 三宮フラワーロード / 塚口南口 / 京橋OBPツイン21-1F/ 静岡駅前南口 / 小倉魚町平和通り / JR北新地駅前タカガワビル/ 金山北口駅前 / 奈良三条通り / 阪急豊中駅前 / 東岡崎駅前通り/ 浜松有楽街 / 名鉄新岐阜駅前 / 大船モノレール / 大鳥居駅前 / JR市川北口駅前 / 船橋南口 / 府中並木通 / 新越谷駅前 / 自由が丘 / JR鶴見駅前 / 千葉富士見江澤 / 祖師谷大蔵駅前 / 武蔵小山 / 高島平駅前 / 八千代台駅前 / 亀有駅前 / 西小山駅前

# 「坐・和民」

横浜西口 / 中野北口 / 渋谷文化村通り / 新宿野村ビル マークの店舗は、一時稼働していない場合がございます。

# 車イス対応トイレ設置店舗一覧

2004年7月末現在

# 居食屋「和民」

中目黒 / 武蔵中原駅前 / 南海難波駅前 / 千日前 /菊川駅前/ 光が丘IMA公園通 / 阪神尼崎 / 名鉄新岐阜駅前

# 「和み亭」

大宮日進 / 与野 / 越谷南町 / 新江古田駅前 / 大鳥居 / 千葉都賀 / 足立谷中 / 西船橋 /武蔵野関前 / 東村山 / 和光/武蔵境/青梅/府中若松/辻堂羽鳥/海老名中央/天王町/ 五反野駅前 / 蕨塚越

# 「T.G.I. Friday's®」

品川パシフィック / MM21クロスゲート マークの店舗は、テナント内、共同トイレに設置

# 会社概要

(2004年3月31日現在)

商 号 ワタミフードサービス株式会社

本 社 所 在 地 東京都大田区羽田1丁目1番地3号(〒144-0043) TEL(03)5737-2288 FAX(03)5737-2700

業 1984年4月

設 立 1986年5月 資 本 金 4,318,924千円

従 業 員 数 1,669名(連結)(2004.4.1日現在)

# 関係会社

(2004年7月1日現在)

(株)ティージーアイ・フライデーズ・ジャパン WATAMI USA GUAM 他1社 和民(中國)有限公司 ワタミダイレクトフランチャイズシステムズ 株) (株)渡美商事 ワタミユニバーシティ(株) ワタミエコロジー(株) グリーンインダストリー(株)

財務データ(連結)

427.1

600

500

400

300

200

100

0

売上高の推移(億円)

5064

585.5

'03 (年度)



経常利益の推移(億円)



社員数の推移(人)



# 環境年表

(株)ワタミファーム

(有)ワタミファーム

ワタミメディカルサービス(株)

1998年 4月 ISO14001環境マネジメントシステム認証取得に向けて活動開始

1999年 7月 業界初、ISO14001環境マネジメントシステム認証取得 < 認証機関SAS >

「ワタミ環境宣言」掲出

2001年 12月 環境報告書 第1版(ふれあい報告書2001)発行

2002年6月 JRMリサイクルセンター第1設立(東京都足立区)

東京都23区内、容器包装系廃棄物のリサイクルスタート

2002年 7月 ISO14001環境マネジメントシステム認証取得・更新 < 認証機関JAB >

2002年 9月 環境報告書 第2版(ふれあい報告書2002)発行

2003年3月 日本環境経営大賞「優秀賞」受賞

2003年 5月 生ゴミ破砕乾燥機の店舗テスト導入開始

2003年 7月 JRMリサイクルセンター第2設立(東京都武蔵村山市)

三多摩、神奈川、埼玉一部地区内、容器包装系廃棄物のリサイクルスタート

2003年8月 第12回「日食・環境資源協力賞」受賞

2003年 9月 環境報告書 第3版

(ふれあい報告書2003)発行

2003年11月 関西地区(大阪市内11店舗より)

リサイクルの仕組みスタート

< ビン・缶・ペットボトル・ダンボールより >

2004年 4月 FABEX(惣菜・弁当・外食専門展)

ブース出店

2004年 7月 IS014001環境マネジメントシステム

認証取得・更新

<本社・384店舗・ワタミ手づくり厨房・ワタミエコロジー(株)・ワタミDFS(株)>

2004年8月 エネルギーマネジメントシステム

導入開始(293店舗)

# (1999年7月29日付け

(1999年7月29日付け 日経流通新聞当社広告)

# 日食·環境資源協力賞

店舗における電気・水使用量などの環境負荷低減に取組み、 継続的に削減効果を出すとともに、店舗から発生する廃棄物の リサイクルシステムを構築したことに「日食・環境資源協力賞 選考委員会」より高い評価をいただき2003年8月、第12回日食・ 環境資源協力賞を受賞しました。

# 日食·環境資源協力賞

1992年に日本食糧新聞創刊50周年を記念して、環境保全に寄与した企業、団体などを対象として創設された賞。

# 2003年度ふれあい報告書 アンケート結果

(当社社員を除くデータより集計)

180名を超える方々よりご意見をいただきました。ありがとうございました。アンケート結果より、2004年度はわかりやすく親しみやすい報告書を目指し制作を行いました。また、個別の意見では、禁煙に関する取組みを掲載してほしいというご意見を頂きましたので現状の報告と昨年からの新たな取組みについて( P9 ) 掲載をさせていただきました。

消費者



2003年度ふれあい報告書

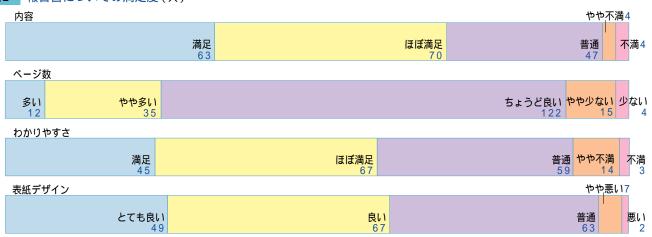
# Q1 どのような立場でこの報告書をご覧になっていますか? (人)

その他 学生 株主 投資機関 NGO

企業の環境担当者5

教職員1、お取引先1

# Q2 報告書についての満足度(人)



# Q3 興味のあった項目(複数選択可)(件)

トップメッセージ	58
ワタミグループ事業活動	34
店舗での取組みの全体像	34
環境管理体制	11
環境目的·目標	13
環境会計	16
環境パフォーマンス(店舗での取組み)	18
環境パフォーマンス(ゼロエミッション)	46
環境パフォーマンス(省エネ・節水・グリーン購入)	20

環境教育	14
安全・安心への取組み	19
社会貢献( ボランティア )	23
社会貢献( スクール・エイド・ジャパン )	33
リスクマネジメント	19
会社概要/編集後記	7
環境・社会活動に対する所感	8
興味のある項目はなかった	2

# Q4 ワタミグループの社会活動全般について、評価するとしたら以下のどれに該当しますか?(人)

とても良い 92 **良い** 普通 <mark>や</mark>や劣る 92 68 24

# ご意見・ご感想を お聞かせください。

ふれあい報告書2004をご覧いただきありがとうございました。 よりよい報告書を作っていくために、皆様のご意見、ご感想をお聞かせください。 FAX**または、ホームページのアンケートフォームでお送りください。** 

FAXの送り先 03-5737-2793 アンケートフォームでお送りいただく場合ホームページをご覧ください。

http://www.watami.co.jp

過去のふれあい報告書もホームページでご覧いただけます。

# 2004年度ふれあい報告書 アンケートをお願いいたします。

どのような立場でこの報告書をご覧になっていますか? 1つだけ √をつけてください。 株主 お取引先 投資家・投資機関 消費者 調査機関 行政の担当者 企業の環境担当者 教職員 学生 環境NGO 当社社員 その他 (具体的に 報告書についての満足度 各項目1つずつ√をつけてください。 内容 ほぼ満足 普通 やや不満 不満 満足 ちょうど良い ページ数 多い ややおい やや少ない 少ない わかりやすさ ほぼ満足 普诵 やや不満 不満 満足 り悪ササ 表紙デザイン とても良い 良い 普诵 悪い 興味のあった項目(複数選択可) 当てはまるものに✓をつけてください。 トップメッセージ(P2) ワタミグループ事業活動(P3) 店舗でのふれあい 食材編(P5) 仕入れ・仕込み編(P6) 店舗スタッフ教育編 P7 ) スタンバイ編(P8) 営業中(P9-10) 閉店後(P11) トピックス(P12) 店舗外でのふれあい 社会貢献活動 国内 ()P15-16 ) 社会貢献活動 海外 ()P17-18 ) 環境コミュニケーション(P19) 本部・本社での取組み 環境マネジメント(P21) 環境コストと効果(P23) 環境目標(P22) 環境教育(P24) リスクマネジメント(P25) データ集(P26) 会社概要/環境年表(P27) 2003年アンケート結果(P28) 環境・社会活動に対する所感/編集後記(P30) ワタミグループの社会活動全般について、評価するとしたら以下のどれに該当しますか? 1つだけ Vをつけてください。 とても良い 良い 普通 やや劣る 劣る 評価する項目はなんですか? 今後、ワタミグループに期待することをご記入ください。 その他、本報告書やワタミグループの社会活動に対して、ご意見やご感想などがございましたらご記入ください。 ご協力ありがとうございました。お差支えなければ下記にご記入ください。 お名前(フリガナ 性別 年龄 男 女 歳 ご住所(〒 ) Eメールアドレス ご職業(勤務先)

FAX**送り先:**03 - 5737 - 2793

部署名

# ワタミフードサービス株式会社 ふれあい(環境・社会)活動に対する所感



株式会社 トーマツ環境品質研究所 代表取締役社長

# 古室 正充

「何のために報告書はあるのか」「報告書は誰が読むのか」

環境報告書が発行されるようになってから常に話題になっている問いかけです。今年のワタミフードサービス株式会社(以下「ワタミ」という)の報告書は、その問いに対するひとつの考え方を与えてくれた... ... そんな印象をもちました。

今年のワタミの「ふれあい報告書」の構成は、環境面、社会面などといった昨今多くの企業で見られるガイドラインを意識したものではなく、単純にお店、お店以外、本部・本社の取組み(ワタミでは「ふれあい」といっています)の3部にまとめています。約200通のアンケートを分析し、自分たちの原点はお客様と直にふれあうお店であるという認識のもとに、食材の安全性や仕入れ、食品廃棄物のリサイクルにわたるいわば外食産業のライフサイクルにフォーカスをあてたことで、従来の報告書よりわかりやすく展開されています。

報告書に限らず企業の情報開示ツールで最も大切なことは、ステークホルダー(読み手)が「知りたい」ことと、企業が「伝えたい」ことのマッチングだと思っています。特に最近のCSR(企業の社会的責任)への関心の高まりにより環境報告書がCSR色を帯びてきている流れの中でその考え方はより重要になってきています。ワタミの報告書はそうした時代のニーズに対する一つの回答を示しているのではないでしょうか。

外食産業でゼロエミッションを実現したワタミのすごさ

ワタミはお店でのゼロエミッション化に外食産業ではじめて成功しました。ワタミの環境ビジネスの中核となるべく設立されたグループ会社ワタミエコロジー(株)との協力作業の下、困難を乗り越え、目標を前倒しで実現したことは業界にとっても大きな前進です。現在は首都圏100店舗での達成ですが、今後店舗数の拡大と共に、ここで培ったノウハウを他社に展開することによるビジネス上の成功も期待しています。

# 今後の課題

次の時代に向けたコミットメント、そして更なる「ふれあい」へ

当面の目標であったゼロエミッションに一区切りついた今、ワタミに 期待したいことは「次の時代に向けたコミットメント」です。残念なが ら今年の報告書からは「次は何をする」という中長期的な考えが明確に 伝わってきませんでした。次年度以降はコミット~方針~パフォーマン ス~成果~今後の課題という流れでの報告が望まれます。

また、ステークホルダーとの対話、双方向性についての情報が今回の 報告書には不足しているように思われます。次回の報告書がより強い「ふ れあい」ツールになることを期待しています。

本所感は、本報告書に記載されている情報の正確性に関する第三者として の意見表明を行うものではありません。

# 編集後記

ワタミグループ2004年度の環境マネジメントシステム活動は、対象を全店舗及び本社、ワタミエコロジー(株)に加えて、今年度よりワタミグループの食材の仕込みを行う「ワタミ手づくり厨房」の2拠点をシステムに組み込み、さらに活動範囲を拡大していきます。また、リサイクルセンターを通じて、リサイクルの輪を広範囲に広げていくとともに、店舗から自社有機農場までの物流を確立させて生ゴミの堆肥化に本格的に取組み、循環型リサイクルを推進させていきます。

外食産業を始めとする業務その他部門における地球温暖化ガスの発生量は、国内の産業の中でも減るどころか年々増え続けています。この現状を踏まえて、2004年度よりワタミグループは地球温暖化の大き

な要因であるCO₂の削減に注力していきます。その一環として、8月よりエネルギーマネジメントの仕組みを取り入れ、今年度は店舗における電気使用量のムダを正確に把握し、タイムリーな削減対応策を取って既存店の電気使用量7%削減に挑戦します。

私たちの基本理念は現在進行している地球規模となった環境問題の改善に寄与することです。

今年度より、ワタミグループでは地球温暖化への取組みを「最優 先課題」として前向きに取組んでまいります。

ワタミグループ環境推進リーダー 遠藤 恒夫

# ふれあい報告書2004

2004年9月発行(次回発行予定2005年9月)

# ワタミフードサービス株式会社

# 環境·社会活動報告

















ワタミエコロジー株式会社 東京都大田区羽田1丁目1番地3号(〒144-0043) お問合せ先TEL(03)5737-7101 FAX(03)5735-5531 ワタミエコロジーホームページ http://www.watami-ecology.co.jp







この報告書は、古紙バルブ100%とアロマフリータイプの「大豆油インキ」を使用しています。 印刷には強いアルカリ現像液を使用しない水なし方式の平版印刷を採用しています。